

# 神学や宗教の概念が全く変わってきた——D・ウィルコック講義

Greatchain  
2019/04/04

例によって D・ウィルコックの長時間講義の冒頭だけを訳すことにする。本当の題はこうではなく、David Wilcock: is the best talks on Antarctic Atlantis Secret Space Program 2019 となっている。内容を聞かないでつけたものと思われる。しかし best talks の一つであることは間違いなく、彼の2時間11分に及ぶ、熱のこもった早口のスピーチは貴重なので、この講義の存在を知らせることは私の使命だと感じた。しかし、彼の知識体系の総決算のようなこの講義の全体を、訳し、十分に解説する能力は私にはない。後半ではミステリー・サークル (crop circle) について、かなり時間を割いているが、あらゆる分野について、誰よりも知っていると思わせる学者は、彼のほかに誰もいないであろう。最後に力を込めて語っているように、彼は人生で会うあらゆる人や出来事が予定され、すべてがつながって現れるようである。明らかに彼は、万人が最も知りたがる、究極の知識を教えるために、教師として生まれてきた。それは科学と宗教に渡る知識であって、その区別はない。

彼は自分の知識は、科学的証拠で固めたものだと言っているから、宗教的な教師とはいえない。しかし彼の思想は意見ではなく、教えとして研究すべきである。将来、彼の思想を研究する多くの研究者が、わが国にも現れてほしいと思う。その場合 The Law of One も研究対象になる。我々は、神学とか宗教というものの概念が、全く新しくなってよみがえってきたと感ずる。それはこの時代の特徴だが、特にウィルコックの影響が大きいであろう。

---

何が本当のところ起こっているのか、真実を知るにつれて、我々はこの膨大な目覚めを経験しつつある。そしてこれらインサイダーの進歩の中で、彼らが知っていることの1つは、物理学の法則は、観察者の信念に依存することで、したがって陰謀団は、我々の信念をととても巧妙に色づけしてしまい、そこでは科学者は歴史的に、神の存在を、月曜日から金曜日までは否定し、日曜日には神に祈って、一週間を過ごし、そんなものは存在しないかのように我々を指導してきた。我々は、そういつてよければ、実に罪深い、科学と霊的なものの断絶を経験してきた。科学には、それを元のさやの収める、実に多くのものがあるのだが、我々はそういうことを拒否している。我々は死んだものの上に縛られ、なんら情報を得ようとしない。我々は、ここで何が起こっているのか、本当のことを理解する必要がないと思っている。

そこで我々は、この社会的記憶の構造を、改造する試みをしなければならない。それが本当に形成されて、そのエネルギーが我々をある方向へ動かし、この惑星はいま、社会的な意識を獲得する前の、最後の段階にあるのでなければならない。そしてますます多くの人が目覚め、ますます多くの人が、何が本当に起こっているのかを理解するにつれて、事態は本当に変わり始めるのだ。そこで私はある 1つの例を、まず初めにお見せしようと思う。

あるスライドを見てもらおう。これは我々がもっている、ある種のすばらしい技術の例で、文字通り私の本の表紙を爆発することができる。(スライドを見せる) まあこれは馬鹿げたものだが、その次のものの衝撃をお見せするためのものだ。私がすばらしいと言うのはこれで、ちょっとこの宇宙のエネルギーを、そのエネルギーの幾何学的な面を見ていただきかった。それは非常に意味の深いものだ。宇宙には禅的な幾何学的な力がある。ここで今、見てもらうのは本物通りではない。しかし、ここで私が水を飲んでいる間に、瞑想すべきマンダラのような、ちょっとしたものを、あなた方に与えることができる。

#### UFO Disclosure

##### News Just Today (3/24)

これは、我々が社会的な記憶（意識）に到達できるしるしである。それは、私の毎日見る Drudge Report のフロントページに文字通り示されている。これはおそらく、今日の世界で最もよく知られた、純粋に独立した情報源で、インターネット上の他のほとんどすべてのサイトよりはるかに大きい。そこにこの情報が突然取り上げられた。それはフィラデルフィアの The Philly Equire からのもので、それは UFO 仲間がずっと信じていることで、科学が今、この実に興味ある出来事を、信じ始めていると言っている。なぜなら、実際にこの記事を読んでみればわかるが、ある女性が数年前に、多分 2012 から 2013 年と思われるが、こういうことが起こったと言っている。

この女性が、自分の家の庭かどこかを歩いていると、あるおかしなものに出会った。それは一種の人間のようなのだが、普通の人間とは全く違うもので、それは基本的には、手も足も、腕も脚部も頭も、人間の体のつくりをしているが、その眼はとても大きく嵩張っていて、彼女は、それが現実に関ることができるとかと思った。また、そのあごが滑稽なほどに大きく、普通の人間のあごにはありえないものだった。そのものは最初彼女を見なかった。しかし気づいたとき、そのものは、目に見えない梯子を駆け上がるように見えた、と彼女は説明している。それから、見えない入口の中へもぐりこむように見え、その時点ですべてが消えた。そして彼女の結論はただ一つ、そのものはある種の航空機をもっていて、その航空機は隠されて見えないが、そのものは何らかの方法で一時的に可視的になったのに違いないということだった。

これはヴェールが透けて見える現象の一例だ。実際 ET たちは、確かにある技術を持っていて、最初に、彼らがより高い次元の存在であるならば、彼らはある意識の訓練された技術によって、自分の姿を隠すことができる。しかし彼らはまた、彼らの装備をも完全に見えなくする能力をもっている。だから明らかに、何千何万という UFO が我々のまわりで、常に活動しているのだが我々には見えないのだ。そこで、もしあなたが、幸運にも 5 次元の、夜も見えるゴーグルを手に入れるか、4 次元から 5 次元の最新のをもっていたら、その一部は見えるようになるかもしれない。そして、それこそがスティーブン・グリア博士やエメリー・スミス技術の大きな部分で、彼らはさまざまな ET と接触している。しかし、それはともかく、我々はほとんどの場合には、どんなものも赤外線で見ることにはできない。もしあなたが幸運なら、何かを見えるようになるかもしれないが、我々の空は、明らかにその全体が幹線道路のようになっていて、どんな時も航空機が行き来しているにもかかわらず、あなたはそれらを見ることができない。しかし彼らは、このカリフォルニアの 405 号線のように、忙しく行き来している。これはもしあなたが知らなければ、ちょうど地獄から来た、8 車線のモンスター・ハイウエーのようなものだ。

だから、沢山の実に気味悪いことが起こっているこの惑星は、非常に聡明な、我々が考えるよりはるかに聡明な生命体に、取り囲まれている。だから、さっきのようなスライドを使ったわけだが、私はあなた方に、出発点として、ある宇宙的な方向付けを与えたいと思っている。そこであのスライドに戻ることにしよう。

October 22, 2013

### The Universe is Teeming with Earth-like Planets

(宇宙は地球のような惑星に満ち溢れている)

これは私がみなさんに話してきたことを、確かなものにする事柄である。それは最初、2013 年 10 月 22 日に現れ、善玉の地球外人との条約から起こったことのようなのだ。陰謀団はサインをしなければならなかった。そしてこの取引は、彼らが一掃されることを避けるためだった。そのときに彼らは、この種の情報を一般に公開しなければならなかった。そしてまさにこの時が、我々が、この宇宙は地球に似た惑星に満ち満ちていることを、聞いた初めだった。これ (写真) は科学者の Drake であり、彼の背後の影にいる科学者たちは、「ドレイク方程式」というものを恐れていた。これは、あたかも科学的に証明可能であるかのように言われ、銀家系には知性をもつ文明は、たった 2.75 個 (の確率) しかないと言われていた。

(…煩雑なので数十行省略)

我々は今、地球に似た恒星の 22% が、地球サイズの惑星を持っていて、その生活可能なゾーン回っていることを知った。そのような惑星の最も近いものは、12 光年以内であるかもしれない。ワオ、我々の太陽に似たすべての恒星の 22% が、地球サイズの惑星をもってい

る。この論文が指摘するのに従って、これらの統計に深く入ってみよう。なぜなら、それはあまりに驚くべきことで、彼ら基本的に系統研究 (pedigree study) をやる人たちは、究極的に、宇宙のすべての恒星のほぼ 1% が、そのおそらく我々以上の惑星に、水をたたえた地球をもっている。しかし、その数字を取ったとしても、それは  $100 \times 10$  億  $\times 10$  億の地球に似た惑星になる。それが意味するのは、世界中のすべての砂粒の 1 つごとに、100 の異なった、水をたたえた、地球のような惑星が存在するということである。

### 驚嘆すべき統計

- ・宇宙の恒星全体の少なくとも 1 パーセントが、潜在的に生活可能な、地球に似た惑星をもっている。
- ・それは、 $100 \times 10$  億  $\times 10$  億の地球に似た惑星ということである。
- ・世界中の砂粒の一粒ごとに、100 個の地球に似た惑星が存在する。
- ・かりに、地球に似た惑星の 1 パーセントだけが、生命体をもっていると仮定しよう。
- ・地球上の砂粒の 1 つ 1 つが、その上に生命体をもつ惑星を表わしている。
- ・次に、これらの惑星の 1 パーセントの上に、生命が、地球上のように進歩して、知的レベルに達したと仮定せよ。
- ・これは世界に、万兆 (10 quadrillion) すなわち 1000 万  $\times 10$  億の知性をもつ文明が、宇宙に存在することを意味する。
- ・同じ計算を、天の川銀河に当てはめてみよ。
- ・10 億の地球に似た惑星を概算せよ。
- ・100,000 万の知性をもつ文明を概算せよ。
- ・「一者の法」は、およそ 1 億と概算している。

別の NASA のこれより新しい研究で、彼らは、この系統研究の後で、通常の太陽のような恒星である必要さえなく、必要なのは赤色矮星であることで、その赤色矮星でさえ地球のような惑星を、周囲にもつことがわかった。それで基本的に、我々の見るすべての異なったタイプの恒星は、地球に似た惑星を持つことができる、その少なくともほとんどが可能であるようなのだ。それで彼らの間では今、地球に似た惑星の数が、我々の銀河で跳ね上がって、400 億になっている。それで、もし 100 の異なった地球に似た惑星が、宇宙の中に、地球上の砂の 1 粒ごとにあるとしたら、それは無限大のパラドックスに陥ることになる。これは「一者の法」が広く言っていることで、彼らが知的な無限と呼ぶものに取り組むことの、恐ろしさをそれは示している。なぜなら、そのもの全体が一つの知性をもっているのだ。だから、いかに複雑なものともあなたが考えても、それはすべて蒸留されて、元の一つの無限の創造者に帰るのだ。

それは、究極的に一つの心であり、あなたの心であり、あなたはこの無限のインテリジェンスに近づいていくのだ。なぜなら、それはあなたで、彼らは、あのより高い領域にいて、あなたを離れた存在として見るができないのだ。それは幻想というもので、幻想とは、我々が隔離したアイデンティティをもっていると考えることだ。なぜそういうこと（一体化）が起こるのか？ それが起こるのは、無限が自分自身を経験できるようにするためだ。宇宙は一方では、生成の過程にあるということもできるが、また宇宙はすでに起こっている、しかし一方で、宇宙は絶えず目覚めつつあると言うこともできる。そして「一者の法」もまた、我々はすべて、あのワンネスの中へと帰りつつあると説明している。そして彼らもまた、重力は愛の原理だと言っている。重力とは何かを考えてみるとよい。重力とは互いに引き合う、そして引き付ける傾向のことだ。宇宙のすべての対象が引き付け合う力が重力だ。重力とは、宇宙が自分自身を一つに強固にしようとし、したがって究極的に、全体的な宇宙の目に見える構造である。・・・

（この調子でこの講義は延々2時間11分づく。これは最初の10分くらい。その間、ウィルコックは言い淀んだり、言い間違えたりすることはない。普通の人には、これだけの内容を語るのに、少なくともこの数倍の時間をかけるであろう。そして、その方が聴衆は理解しやすいであろう。ある意味で彼は異常者と言ってもよい。彼がここまでして真理を語ろうとするのは、何か途方もないことが、現実に起ころうとしてからではないだろうか？ 彼は恐ろしい相手と戦っている。私はこの内容もさることながら、その雰囲気伝えるためにこれを訳した。）